

ワーケーションの活用 ～働き方改革や地方創生等の視点から～



<ワーケーションの捉え方についての問題提起>

ワーケーションを単に「旅行需要の平準化や新たな旅行機会の創出」という目的だけではなく、社会の大きな動きとして定着させていくためには、

- 個々人に場所にとらわれない柔軟な働き方を認めることにより、自律的に仕事の質や能力を高めつつ、個々人の事情や価値観に見合ったライフスタイルを実現することを後押しする、
- 自宅や職場を離れて仕事を行う働き方を認めていくことで、日常にない気付きや学び、交流を得て、新たな価値創出や地域・社会の課題に取り組むなどのきっかけとする、

といったことをワーケーションの目的として問いかけていくべきではないか。

With/Afterコロナ時代の企業が直面する課題


企業としても、コロナ禍以前から進行し、コロナ禍により明らかになった課題に正面から対峙し、新たな時代に見合った経営改革・働き方改革に取り組みつつ、地域や社会の課題にこれまで以上に向き合い、持続的な成長・発展に取り組んでいくことの重要性が増大している。

1. DXの推進・働き方改革

- ・デジタル技術の活用による競争力の強化
- ・事業環境の変化に対応した、イノベーション創出の重要性
- ・働き手の自律性を重視した、多様で柔軟な働き方・ライフスタイルの実現

2. 地方創生・SDGsへの対応

- ・地方の課題や可能性を活かした価値創出による地方創生、東京一極集中の是正
- ・世界的な持続可能性への意識の高まり



働く場所や時間の自由度を高めるワーケーション(※)を採り入れていくことで、**従業員の自律的な働き方**を促すとともに、**企業が抱える様々な課題への対応**につながることを期待される。

(※)Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。

テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。

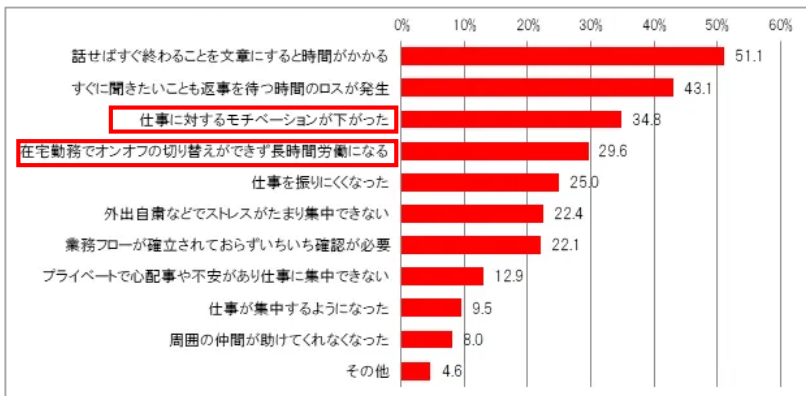
DXの推進・働き方改革へのワーケーションの活用

1. 仕事の質の向上

- ワーケーションの実施により参加者の集中度向上やストレスの軽減といった効果がみられ、これを通じてエンゲージメント向上を通じた仕事の質の向上の効果が期待し得る。

テレワークで個人の生産性が低下した理由

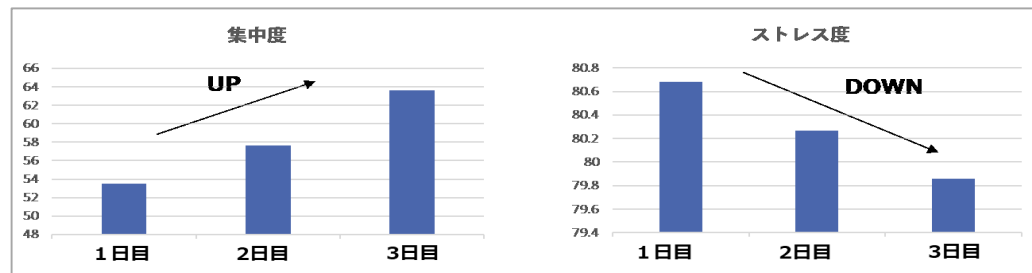
モチベーションの低下や、オンオフの切り替えの難しさ等が挙げられている。



【出典】NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社
「テレワークと会社満足度に関する調査」(2020年9月実施)

ワーケーション参加者の心拍変動の分析結果

- 滞在の日を追うごとに、**集中度が高まり、副交感神経が高まる(ストレスも軽減する)傾向**が示されている。
- 海外の研究では、副交感神経が高まると、従業員エンゲージメントが上がるという研究もある。



※観光庁モデル事業における、企業を対象とした測定結果の例

ワーケーション参加者のコメント

「PCのみでできる仕事は、**景色がよく癒しの空間であるワーキングスペースで作業をすることでメリハリがつき、通常の業務より集中力が高まった**」

「**景色がよいだけで、気分を変えて仕事ができるようになる**」

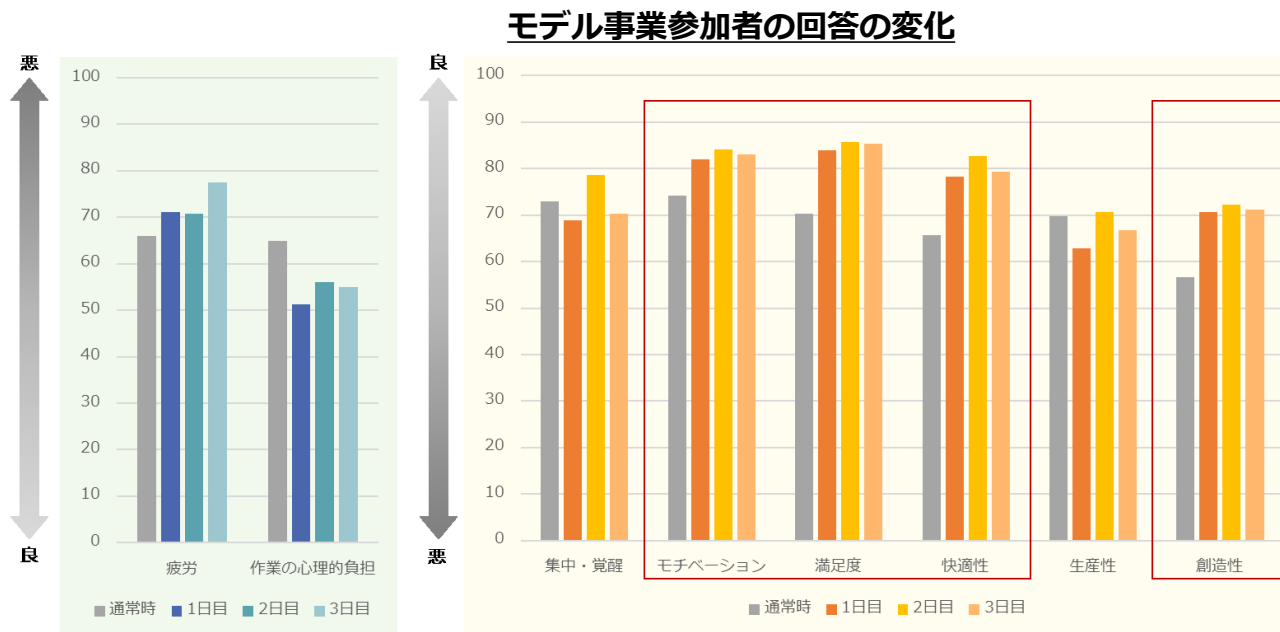
「**普段テレワークで仕事をするときと比べ、同僚とのコミュニケーションの機会が増え、より意識共有ができるようになった**」

DXの推進・働き方改革へのワーケーションの活用

2. 帰属意識や創造性の向上

- ワーケーション参加者へのアンケート結果では、モチベーション、満足度、快適性、創造性については向上がみられている。

⇒ 個人のタスクベースでの生産性は大きく変わらないとしても、**従業員のモチベーションやエンゲージメント、創造性の向上**を通じて、**組織としての成果の質や生産性の向上につながり得る**と考えられる。



※主観アンケート（複数企業の平均値）の傾向より

ワーケーション参加者や企業担当者からのコメント

「地域の方々の声を直接聞くことができたことで、新たなビジネスにつながるような発見や刺激があったので、他の地域でも実施してみたい。」

「新しいビジネスにつながるアイデアが生まれることもあるし、何より、参加した社員が普段はなかなかできない体験や交流をすることで、人としても大きく成長すると感じている。」

DXの推進・働き方改革へのワーケーションの活用

3. イノベーション・新規事業の創出

- 社員が地域に出て、地元の住民や企業と交流することで、**課題解決・新規事業のためのアイデアや、それを得るための手がかりを得るきっかけ**となっている。

野村総合研究所×徳島県三次市

三好市の古民家に2週間滞在し、平日は通常業務、週末は休暇を過ごす。社員は地方に対する課題に対して視野が広がったり、地域での活動に感謝の言葉をかけられることなどで会社では得られない気づきを得られ、課題発見のきっかけとなっている。



ブロックチェーンロック×福岡県福岡市

福岡市で通常業務に取り組む傍ら、高齢化・人口減少に悩む地域の人との交流とワークショップを実施。同社が有する技術を使った新たな事業による地域課題解決のためのアイデアの検討が進展した。



ワーケーション参加者や企業担当者のコメント

「スマートシティのプロジェクトに取り組む上でも、**地域課題解決に取り組むことで得られる体験が、ビジネスを考えるためのフックとなっている**」

「ワーケーションで**地域の皆さんのやる気や問題意識に触れることで、早速自社のリソースを活かして地域に貢献できる事業があるのではないかという手応えを感じた**。今後具体的に検討してみたい」

DXの推進・働き方改革へのワーケーションの活用

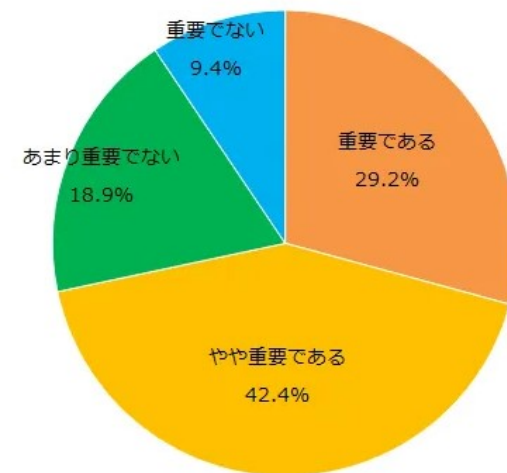
4. 人材採用・人材確保における効果

- 民間の調査では、**学生が働きたい会社は「リモートワークが可能」が最多**で、給与の高さよりも**働く場所や時間に縛られない柔軟な働き方を望む傾向**が見られる。
- 「ワーケーションなど柔軟な働き方ができる会社」を希望する学生も**1/3**にのぼる。
- どこでも働ける環境を用意することは、共働きや育児、介護等の事情を抱える人も増える中、**中途採用の競争力向上や人材流出の防止につながる効果**もみられる。

20代の学生が働きたいと思う会社



会社選びの条件としてリモートワークができること



【出典】ビッグロブ株式会社「ニューノーマルの働き方に関する調査」(2020年9月実施)

企業担当者のコメント

「**働き方をフレキシブルにすることで、採用の幅もとても広がりました。特に中途の採用は物凄く増強され、多様なバックグラウンドを持つ人達を採用できるようになりましたね。**中途の方はワークライフバランスの大切さを感じているからかもしれません」

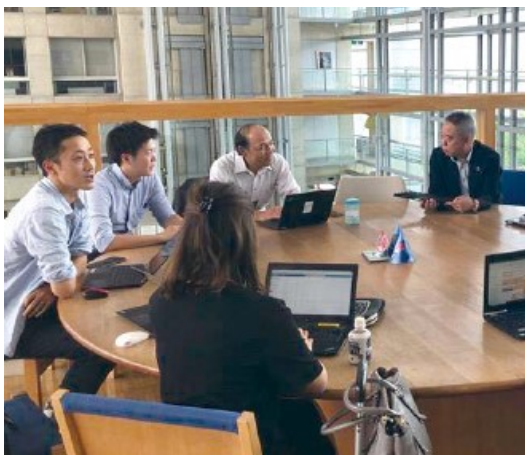
地方創生・SDGs対応へのワーケーション活用

1. 地方創生への対応

- 人口減少・少子高齢化、産業の衰退、財政難などの従来からの課題に、近年、感染症に伴う新たな課題が加わり、地方創生は一層重要な課題に。
- テレワークが新しい働き方として普及しつつある中、ワーケーションを通じた**交流人口・関係人口の拡大**や、それを通じた**新たな価値創造、雇用の創出、地域課題の解決等の重要性**は一層増大。

ユニリーバ・ジャパン

働く場所や時間を社員が選べる働き方を導入。さらに8つの自治体と連携し、社員が地域に滞在しながら、業務外で自治体の指定する地域課題の解決に貢献する活動を実施した場合、自治体から宿泊費が補助される仕組みを導入。



アイエンター／ズープスジャパン×北海道北見市

市で整備したサテライトオフィスで仕事をしながら、地元の工業大学との共同研究や新卒者の採用、インターンシップを実施するとともに、企業の技術を使って地域の課題を解決することにも挑戦中
(例：市役所の窓口業務におけるロボット技術の活用)



ワーケーション参加者のコメント

「**参加した地域の魅力を広げたいという気持ちになった。**参加者にはSNSでの情報発信等をお願いし、次回再訪時にサービスを受けられるようなシステムは再訪促進になるのではないかと」

2. SDGs経営への対応

- 「持続可能な開発目標（SDGs）」に対する世界的な関心の高まりや、投資家のESGに対する意向により、企業にとって、**SDGsと経営を結び付けることで企業価値を高めることの重要性は一層増大**している。
- ワーケーションを通じて社員が地域の関係者と交流し、地域課題の解決をともに考えること、地域において環境保全等の取組に参加することは、**SDGsを身近に感じ、その重要性に対する意識・感度を高め、SDGsへの取組を促す**効果が期待される。

リコー×富良野自然塾

自然を体感しつつ環境教育プログラムに参加したり農業体験・植樹体験を行うことで、森や水資源の大切さ、植物・動物の命、自然の時の流れを五感を使って体感するとともに、地域住民との意見交換等を行い、自然環境や地域、それらが抱える課題などに関する理解を深めた。



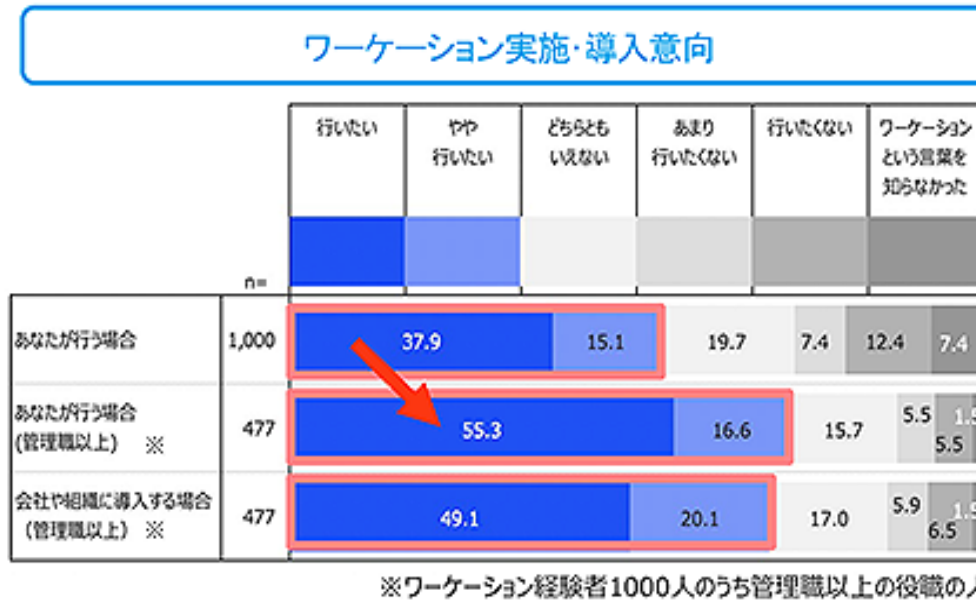
鹿島建設×北海道鹿追町

町の特性を活かし様々な環境を体感できるプログラムを実施。生態系（外来種防除）やエネルギー（バイオマス）などをテーマに学習や課題解決の検討を深め、参加者からは、企業が考えるSDGsのテーマをいかに具体的に地域の課題とすり合わせて解決を図っていくかを考える大変良い機会になったとの振り返りがあった。



ワーケーション参加者や、企業の経営者・管理職の所感

- 本年度のモデル事業においては、まだ中間的評価ではあるものの、**ワーケーション参加者の満足度は総じて高い。**
- ワーケーション実施者への調査では、**企業の経営層・管理職以上の方が、「また行いたい」「自らの会社や組織でも導入してみたい」という意向が高い。**
- ワーケーションに対する理解を深めつつ、自社に意義のあるワーケーションを実施していくには、**まず経営層や管理職が実践することで、ワーケーションの意義や効果を実感しつつ、自社の課題に応じたワーケーションのあり方を検討することが重要。**



出所：ワーケーションに関する調査（2021年3月）を一部加工。
株式会社クロス・マーケティングと山梨大学田中教授・西久保教授が全国の就業者76,834人に実施。

ワーケーション参加者や企業担当者のコメント

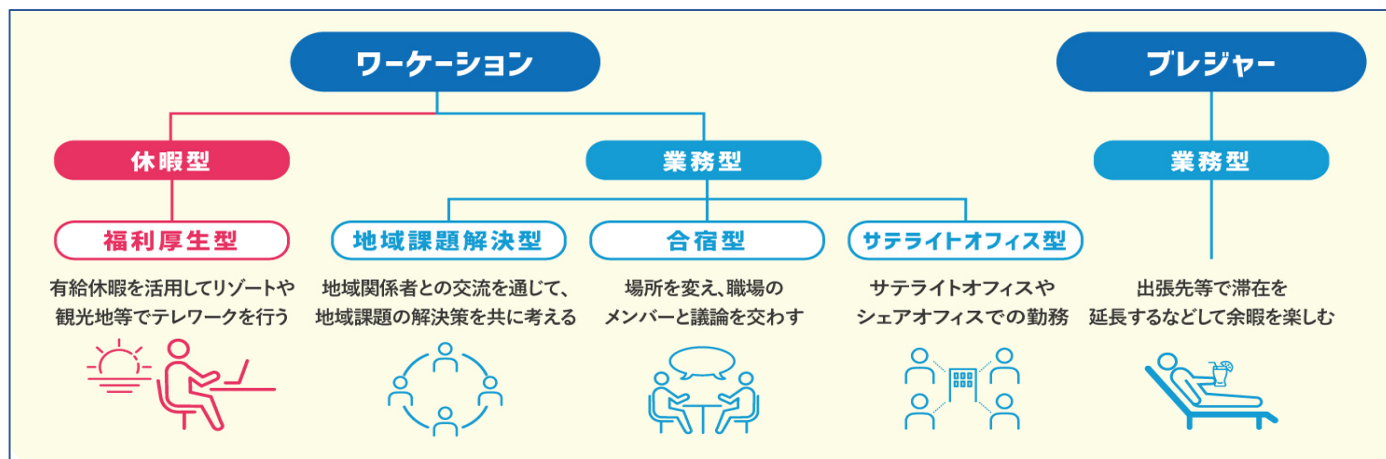
「ワーケーションを普及していくには、ワーケーションを企業の**社員の間で正しく認識**することが重要だと感じた。」
「働き方はコロナを受けて徐々に変化してきているが、**ワーケーションを通じて社員の満足度・充実度向上を目的としたさらなる風土改革に取り組んでいきたい。**」

ワーケーションを活用した「新たな働き方」

ぜひ、ワーケーションを活用してみたいかでしょうか？

ワーケーションの実施形態は画一的なものではなく、様々な選択肢がありますので、企業のニーズや目的に合った形態で、まずは段階的に取り組んでいただき、ワーケーションを導入・容認するような働き方の改革を通じて、ぜひ自社の課題解決につなげていただければ幸いです。

＜ワーケーションの実施形態(イメージ)＞



ワーケーション 観光庁

検索